

保育者・初等教育者に必要とされる 幼児・低学年児の造形を「みる力」の育成



立命館大学
教授 松岡 宏明

本稿では、保育者・初等教育者には幼児・低学年児の造形¹⁾を「みる力」が必要とされることを確認するとともに、その育成のために、養成課程・現場研修にて筆者が取り組んでいる教育実践について報告したいと思います。

ここで言う「みる力」とは、幼児・低学年児（以下、子供）の造形を理解する力と、子供の造形の芸術性を感受するための基盤となる「美術鑑賞の力」が相俟って発揮され、機能する力を指します²⁾。

1. 子供の造形を「みる力」に不可欠な「美術鑑賞の力」

筆者はこれまでの研究において、子供の造形を「発達の」、「特徴的」、「美的・造形的」、「心理的」の四つの側面から理解することの重要性を述べてきました³⁾。また、「子供の造形」が未分化性を特徴としている点⁴⁾と、「芸術」が分化した世界を擦り合わせる営みだと

いう点⁵⁾において、それらの作品や制作過程に共通性・親和性があることを論じてきました⁶⁾。さらに子供の造形と芸術家の美術には、その芸術性の高さにおいて同位であることを、J.H.デイヴィス（1943-）が提示する「U-curve of graphic development」にも拠りながら、両者の作品を比較分析して確認しました⁷⁾。それらの考察を通して、子供の造形の四つの側面のうち、その芸術性の感受と深く関連する美的・造形的側面については、単に知識としてアプローチするだけでは不十分であることを導き出しました⁸⁾。

また、保育者 518 名を対象とした筆者の調査によると、保育者が子供の造形を発達や特徴的側面からみることについての重要性の意識及び判断の自信は総じて高く、保育経験の長さによってそれぞれ向上していきます。しかし美的・造形的側面からみることについては、もともと重要性の意識も判断の自信も低く、経験年数を重ねても高まっていないことが明らかになりました⁹⁾。

そこでキーを握るのが、「美術鑑賞の力」です。実は、子供の造形だけをみても、その美的・造形的な良さを感受できません。子供の造形と芸術家の美術の芸術性との同位性を鑑みる場合、芸術家による美術を鑑賞する力が、子供の造形を受容し、反応し、賞賛し、共感・共有することに生かされるのです。

2. 子供の造形をみる際の「反応の引き出し」

保育者・初等教育者養成の授業において、子供の造形の発達や特徴に関する知識を身につけるだけでも、また「描いたり、つくったり」する活動を重ねるだけでも、子供の造形を「みる力」の育成は不十分です。美的・造形的側面が深く関与する「美術鑑賞の力」が意識された演習が、具体的に展開されなければならないのです¹⁰⁾。現役保育者にも同じことが言え、ただ漠然と子供の造形に接しているだけ、あるいは研修で自らが「描いたり、つくったり」する活動だけを重ねていても、その魅力を受容し価値を同定することはできません¹¹⁾。

だからと言って、保育者・初等教育者養成の授業等で名画・名作等を用いた独立した鑑賞

活動を取り入れたところで、学生たちが自身でその学びを子供たちの造形をみることに活用できるわけではありません。作品の「主題」や「造形要素」といった美術鑑賞の観点に目を向けさせる「しかけ」を用意することが重要となります。

筆者が提唱するのが、図1の、子供の造形をみる際の「反応の引き出し」¹²⁾です。これは、筆者らが開発した「鑑賞学習ルーブリック」¹³⁾を基に、美術作品の「主題」及び「造形要素」と、子供たちの世界観に近づくための観点を一体化しタンスに見立てた構造になっています。



図1 反応の引き出し

いちばん上の段は、「造形要素」に関する引き出しです。「形」、「色」、「構図・配置」の三つです。重要な美術鑑賞の観点です。時には「材料や技法」を含めることもあります。中段は「感情」の引き出しです。差し詰め「喜怒哀楽」の四つの引き出しにしていますが、実際はもっとたくさんあるでしょう。これは作品に描かれたモチーフや情景がもっている感情という意味と、作品を見ている人(自分)の中に生起する感情という二つの側面があります。いずれにしてもこれらは、作品の「主題」と関係しています。そして最下段は「五感」の引き出しです。優れた美術作品は五感を刺激しますし¹⁴⁾、全感覚を起動させることで鑑賞はより豊かになります。また、子供たちは五感を通して世界を認識していますから¹⁵⁾、その世界観に近づくため(を回復するため)の観点でもあります。「子供たちと仲良くなる段」とも言えます。

筆者は、保育者・初等教育者養成の授業や現場研修において、制作活動の途中や終了時に、この「引き出し」を活用した鑑賞活動を組み込んでいます。常に「引き出し」を見えるように提示し、仲間の作品に対して「いちばん上の段に関する言葉を含んだタイトルをつけましょう」、「中段をどれか一つ引きだして、作品内のモチーフが語っているセリフを話しましょう」、「最下段の引き出しを使って、作品に物語をつけましょう」など、題材ごとに違った課

題設定をします。ただし、この「引き出し」から外れないようにします。いずれにしても作者が自作を語り、それに対して感想を述べていくようなかたちではなく、飽くまで、鑑賞者が自分の見方・感じ方で作品の主題をイメージしたり、造形要素を介して解釈したりすることへといきないます。そして、このタンスをいつも頭の中にもっていて、子供たちが「こんなのできたよ」と作品を差し出してきたときに、どの引き出しを開けて反応するか、その用意しておくことを学生や保育者に意識づけるのです。さらに、人はみな、みることににおいても個性があります。「あなたにとってもっとも滑りのいい引き出しはどれですか？その引き出しには特にワックスをしっかりとつけてスルスルにしておいてください」と伝えます。

それらの演習をした上で、指導・教育法の授業の後半に、美術鑑賞とはどういったものかについて思考させ、名画・名作を含めた美術作品を鑑賞していくことのおもしろさや意義を実感できる内容を展開していきます。芸術家の美術作品への鑑賞の力が、芸術性において同位性のある子供たちの作品を「みる力」につながり、子供たちを言祝いでいくことに昇華されていくのです。

以上、保育者・初等教育者に必要とされる子供の造形を「みる力」の育成について述べてきました。会員諸氏のご意見を伺いたいと思います。みなさまとともに保育者・初等教育者養成課程における造形・図画工作科教育の内容や、保育・初等教育現場における造形教育を質的に高めていくことを切望しています。よろしくお願ひ申し上げます。

註及び引用文献

- 1) 「幼児・低学年児の造形」とは、幼児・低学年児の造形作品（痕跡、完成作品）とその活動の過程を含みます。もちろん、ここで言う「作品」については、幼児・低学年児が完成した「作品」として自認しているとは限らず、またそれが「造形」としての自覚もない場合が多いでしょう。さらに、その自認や自覚は必要なものではないことも断っておきたいと思ひます。
- 2) 松岡宏明,2019,「保育者・初等教育者に求められる幼児・低学年児の造形を『みる力』に關

する研究」,博士(教育学)論文,大阪総合保育大学大学院, p.11,

<http://doi.org/10.15043/00000942>

3) 松岡宏明,2017,『子供の世界 子供の造形』,三元社,pp.68-133

4) 幼児・低学年児においては、「昨日、今日、明日」、「あっちとこっち」、「現実と空想」、「体験と想像」、「身体と心」、「自分と他者」、「生命と非生命」、「人間と人間以外」、「見えるものと見えないもの」、「存在するものとしなないもの」といったもの・ことが分化していません。

5) 美学者、井島勉(1908-1978)は、芸術家たちの営みを「自他の分化、人間と自然との対立、精神と肉体との分裂、理想と現実との背反、思想と思想との相剋など、多様を極める区別に根ざし、しかもこの区別を超えて、自己と対立するものとの合一の世界、いかえれば、そのような合一として自覚される生の表現を築こうとする」と述べる(井島勉,1969,『美術教育の理念』,光生館)。芸術家は、一旦分化してしまった世界を再統合する(未分化状態に戻す)ということです。

6) 3) に同じ。pp.48-67

7) 松岡宏明,2021,「先生は、子供にとっていちばんはじめの、いちばんの鑑賞者」,『未来につながる美術教育』,日本美術教育学会 70 周年記念論集,日本美術教育学会,pp.31-36

8) 松岡宏明,2023,『子供に子供の美術を』,三元社,pp.36-49

9) 松岡宏明,2020,「保育者を対象とした幼児の造形を見ることに関する調査からの考察」,『美術教育』,No.304,日本美術教育学会,pp.11-14

10) 2) 論文,第 4 章第 3 節「保育者養成段階における『みる力』の育成」,pp.129-138 にいくつかの実践例を具体的に紹介しています。

11) 2) 論文,第 4 章第 4 節「保育者の『みる力』の育成」,pp.138-144 にいくつかの実践例を具体的に紹介しています。

12) 8) の pp.116-122 に、その具体的な活用の仕方を詳述しています。

13) 平成 26・27・28・29 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(一般)(課題番号:26285204)「学校における美術鑑賞の授業モデルの拡充と普及についての実践的研究」(研究代表者:松岡宏明)の一環として考案したものです。また、そのループリックの活用法をコンパクトにまとめた「鑑賞学習ループリック&ガイド」を作成しています(松岡宏明〈代表〉、赤木里香子、泉谷淑夫、大橋功、萱のり子、新関伸也、藤田雅也、佐藤賢司、村田透)。アートポスト紙(マット PP 加工)を使用し、A3 版二つ折り 4 ページで構成されています。ご関心をもたれた会員の方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい(hiro-m@fc.ritsumei.ac.jp)。無料で送らせていただきます。

14) 3) に同じ。pp.53-57

15) 3) に同じ。pp.20-29